

## 平成27年度 自己評価及び学校関係者評価書【年間】

1 本年度の教育目標

ともに考え ともに伸びる

2 本年度の重点目標

○90分以上の家庭学習の習慣化      ○自己有用感の育成      ○学校へ行こう 来校者の増加

3 評価結果

重点目標	達成指標	重点的取組	取組指標	評価指標	達成状況・成果・課題	評価	改善策	学校関係者評価
90分以上の家庭学習の習慣化	基礎・基本の徹底 週末課題の提出率100%を目指す。	週末課題を計画的に出題する。	週に5ページ(国・数・英)以上のデータベースを活用する。	データベース活用度	<ul style="list-style-type: none"> <li>データベースを活用し計画的な取組ができている。提出は遅れがちな生徒もいるが100%の提出率となっている。</li> <li>ドリル学習で基礎基本の繰り返しを徹底している。範囲を決めて合格するまでやり直しするなどの学年部職員を中心に個別指導ができている。</li> <li>定期テスト前のノーメディアウィークは習慣化し、家庭環境の改善につながっている。「親子で家庭学習」は取り組めない家庭もあるが、わが子の学力に関心を持つことにつながっている。</li> <li>数学や英語では、下位生徒の割合に変化はないが、国語、社会、理科では2極化が改善できつつある。</li> <li>90分以上家庭学習の習慣化が定着できつつある。全体93pt 1年100pt 2年82pt 3年85pt</li> </ul>	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>重点目標が生徒の目標として取組まれるようになってきた。その成果もあり、90分以上の家庭学習が習慣化してきた。しかし、学習の内容が不十分で学習内容が定着する学習となっていない生徒が少なくない。引き続き、学習相談をはじめとする個別の指導を中心に改善を図ることが求められる。</li> <li>協働の取組が定着しつつあり、保護者の見守り等により、学習環境も改善できつつある。しかし、テレビ視聴時間が減ってきたといえ、改善の取組は強化する必要がある。</li> <li>授業改善では、「学びに向かう姿勢」に視点を当て、学習に対する関心・意欲を高め、主体的な学習姿勢となるような改善が求められる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>達成状況はかなり良くなっている。個別指導の改善に向けて生徒と取組について話し合うこと良いのではないかな。</li> <li>職員が意識を高め、組織的に達成できるように取組んだ成果が表れたと思う。</li> <li>90分の家庭学習が定着しつつあることは素晴らしい。が、集中した取組ができているのか気になる。</li> <li>宿題を提出するという当たり前のことが当たり前に行っていることが習慣化につながったと思う。</li> </ul>
	正答率50%未満の下位生徒の割合10%未満を目指す。	ドリルタイムを学年部職員全員による指導で充実させる。	毎日、帰りの学活前に実施する。質問教室を月に2回以上、定期的に開設する。	実施回数		3		
	90分以上の家庭学習をしている生徒の割合85pt以上を目指す。	定期テスト前のノーメディアウィークや「親子で家庭学習」を保護者と協働し取り組む。	学期に2回ノーメディアウィークを実施する。月に1回「親子で家庭学習」を実施する。	実施回数		4		
自己有用感の育成	学校が楽しいと感じる生徒の割合85ptを目指す。	生徒主体による行事を充実させ、自己有用感が持てるような人下関係づくりを行う。	生徒集会や生徒会行事を月1回以上実施する。	生徒会活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>給食前の時間を利用した「食の学習」、定期的な生徒集会における発表、朝・帰りの会でのスピーチ等表現活動を中心に取組が深まっている。簡単なコメントだけでなく、自分の体験を踏まえた感想も言えるようになってきた。</li> <li>学期に2回、アンケートを実施し、その後に教育(学習)相談を実施することができた。</li> <li>学級内の人間関係は安定しているが、上下の関係によるトラブルが数件みられた。学年を超えた人間関係の改善が求められる。</li> <li>学習に限らず、ペアやグループを使った活動を意図的にしくみ、互いを支え合い、高め合う活動を組織していくことが重要になる。こうした取組が組織的にできているので、さらに充実させ、自己有用感を高めることにならうようにしていきたい。</li> </ul>	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>表現活動を通して、自分の思いを素直に伝えあうことが、相手を思いやる心や自立の精神につながっている。今後は、さらに認め合い・高め合う人間関係まで高めていきたい。</li> <li>外部人材による多様な学びや体験を通して、いろいろなことを考えることができ、学びが深まっている。今後も重視して取組んでいきたい。</li> <li>最高学年、中堅学年として下級生にどう接することがふさわしいのか、学年を超えた関係づくりも視野に入れて、自己有用感の育成に取り組んでいくことが求められる。</li> <li>行事や体験的な学習を通して、自己有用感が持てるように計画的、組織的な取組を継続していきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も生徒の表現力や精神力を高め合って学べるよう学校として取り組んでほしい。</li> <li>取組が生徒に効果的に浸透して向上したと思う。</li> <li>今後もいじめアンケートや教育相談を続けてほしい。</li> <li>学年を超えた人間関係については、個人の性格や生活環境の違いもあり、難しいと思うが、今後もしっかり取り組んでほしい。</li> <li>あいさつについて、男子生徒はすれちがっても何も言わない。保護者等にもしっかり大きな声で挨拶ができるようにしてほしい。</li> </ul>
	いじめのない学級づくりをすすめていると感じる生徒の割合90pt以上を目指す。	生徒同士、生徒と教師のコミュニケーションを深める。	いじめ・生活アンケートを学期に2回以上実施し、実施後に教育相談を行う。	アンケート、教育相談実施回数		3		
	互いに励まし合い、高めあうことができていると感じる生徒の割合80pt以上を目指す。	長所や善行を認め、取り上げる学級指導を行う。	毎日の学級活動で取り組む。月1回、自己有用感を高めるための指導を計画的に行う。	アンケート結果		4		
来校者の増加	地域の願いなどの声を聞いて教育活動を行っていると感じる地域・保護者の割合85pt以上を目指す。	学校の情報を積極的に発信し、教育活動に対する関心を高める。	学校・学級だよりを月2回以上発行する。学校HPを月1回以上更新し充実させる。	学校・学級だより 学校HP	<ul style="list-style-type: none"> <li>学級だよりは毎週1回は発行され、学級の様子を伝えることができている。</li> <li>地域に対する情報発信は、行事後に取組の紹介となっている。事前に紹介してほしいという地域からの声を大切にしたい。</li> <li>ゲストティーチャーの招へいについては、数学GTをはじめ、測量実習、技術の木工、音楽座ワークショップ、情報モラル、正月飾りの作成等様々な分野で学習支援を受けることができた。</li> </ul>	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校行事への参加を意識した学校だよりとなるように工夫することが求められる。特に校内文化祭や大きなイベントでは地域の参加を案内したい。老人会の年間活動計画に位置付けていただく等、案内の時期や方法を工夫していきたい。今後も様々な機会を通してゲストティーチャーの支援を受け、学校改善につなげていくことが求められる。</li> <li>特設学校公開デーの実施には、地域行事に配慮し、保護者や地域の方が参加しやすい体制づくりが求められる。看板等を使い案内を早めに行うなどの工夫をしていきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き現在の取組を行い、学校改善につなげてほしい。</li> <li>生徒、保護者・地域ともに伸びることができたと思う。</li> <li>たくさんの方が学校に来ていただけてとても良かったと思う。</li> </ul>
	ゲストティーチャーの招へい 年間のべ50名を目指す。	地域人材を活用した教育活動を積極的に行う。	特設学校公開デーを学期に1回設定し、保護者や地域の方の来校を呼びかける。様々な分野でゲストティーチャーを招へいし、学習支援を受ける。	ゲストティーチャーの招へい数		4		